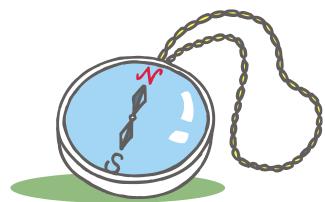


# 羅針盤



第 26 号 令和4年(2022年)12月12日(月)

## ◆ 「世界人権宣言」

12月10日は、「世界人権デー」（「世界人権の日」と呼ばれたりもします。）でした。また、日本ではこの「人権デー」を最終日とする12月4日から12月10日までの一週間を「人権週間」と定めて、全国的に啓発運動を展開し、広く国民に人権尊重思想の普及高揚を呼びかけることとされています。「人権デー」が制定された背景には二度に及ぶ世界的な戦争があり、昭和23年（1948年）12月10日に行われた国際連合の総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」が採択されたことが始まりです。「世界人権宣言」、それは、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、それ自体が法的拘束力を持つものではありませんが、世界的には初めて人権の保障を国際的にうたった画期的なものです。この「世界人権宣言」は、すべての人々が持っている市民的、政治的、経済的、社会的、文化的分野にわたる多くの権利を内容としていて、前文と30の条文から構成されています。世界各国での憲法や法律に取り入れられるとともに、様々な国際会議での決議にも用いられており、世界各国に強い影響を及ぼしています。しかしながら、今もなお、世界各地で新型コロナウイルス感染症の感染者等に対する偏見や差別であったり、あるいは、インターネット上における誹謗中傷、いじめや虐待、外国人や障害のある人、ハンセン病元患者やその家族などに対する偏見・差別など、様々な人権問題が依然として存在しています。また、残念ながら「最大の人権侵害」といわれる戦争によって命を落とす人が後を絶たない日々が続いていることも事実です。第二次世界大戦のような惨劇を二度と繰り返してはならないと反省からうまれた「世界人権宣言」。人権の軽視が戦争へとつながり、戦争によってさらなる人権の侵害を招くといった悪循環を断ち切るために、そして、世界平和の実現のために、世界中の国々が協力して人権を守ることを決意したはずです。今、目の前にあるこれらの問題を解決していくためにも、国連の持続可能な開発目標（SDGs）が掲げている「誰一人取り残さない」社会を実現していくためにも、私たち一人ひとりが人権尊重の重要性を改めて認識し、他の人の人権に配慮した行動をとることが求められているはずです。「人権」は、「与えられるもの」ではなく「つくりあげていくもの」だと言われます。私たちの要求によって生み出され、私たち一人ひとりの手でつくりあげていくものであるということです。「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」という世界人権宣言の理念を心に留め置きながら、しっかりとと考え、行動することが今日の現代社会で求められているはずです。この間、世界各地では人権の重要性を訴える様々なキャンペーンやイベントが開催されてきました。12月10日の「人権デー」をきっかけとして、人権の重要性とその意味を考えてみることで、私たち一人ひとりの暮らしの中にも大きく関わっていることの意味を見いだしていくことがとても大切なことだと思います。

INTERNATIONAL  
HUMAN RIGHTS

